



法園ヨリ抄下三法ノ泛リアリ
本邦小續
朱

服部文庫
イ17
60



續日本紀

本朝浩園



三鏡

此玉維乃玉字片假名下仙

物馬ト古上ハ一雙ノ石物古事淡

琵琶

○十列冷物

師走ニノ

羽衣

田扇

田蓼水

老女ノ假粧ケカウ

女ノ醉サケ

胡瓜ノ老カ

師ノ醉舞ニ

善淫神樂 勅使被_レ打囚競馬 昆侖ハ仙舞_ノ画

天皇

筆之記

○應神紀

子菟道稚郎子ウサミチノチロコ初_レ百濟ノ阿直岐ヲ

師トシテ文ヲ学ヒ玉_フ其後百濟ノ王仁來朝ニ

論語千字文ヲ持來ル即子從_テ配_テ師トス漢子記

○滋野真主秘府畧十卷ヲ作ル又経國集ヲ編ス

全本ツタハラス 御書目録

○足利学校

録名大州子

下野國足利ノ学校ハモトヨ小姓篁ノ旧跡ナリ承和

六年ニ篁國司ヨリ時建立ナリ上杉安房守憲実

ハ足利ノ公方ノ御名字ノ地ナリ南興ニテ学領ヲ

附シ学徳ハ憐愍ス大明ヨリ五經正義ソノホカノ諸

書ヲ収メ又大明ノ正使ヲ將龍溪学校ノ二大字ヲ

書シテリ堂内ニ孔子木像アリ又三幅一對ノ画

像アリ中ハ孔子左ハ顔子右ハ子路古法眼コレヲ圖

セシトカマ

○玄惠法印モト儒ノ家ニシテ台宗ニ皈シ後還俗ス然レ

トモ髮ヲシテ身ヲ終ニ博識ヲ以テ世ニ聞ユ其ノ作ル处

太平記庭訓性本等今猶存シテ以童ニ使ラス玄惠

ミツカラ洗心子ト号ス初々温公通鑑ヲヨムト云ヘリ

人史

○桓武帝以前ニ和州ハ累朝帝都多ク吉野ヲ遊覽シ
 佳境トス。後世吉ノ字或ハ芳ノ字ニ作ルノ據ヲシラス。禪
 僧靈彦曰芳ハ其茅ノ字ヲ誤ルリ然レモ亦臆説ナリ
 是非ラシラス俗ニ茅華ヲ呼ビテ興志ト云フ故ニ靈彦
 芳ノ字茅ノ字ニ似ルヲ以テ是ラ云フ若シ靈彦ノ説ノト
 ヲハ則テ日本紀ニテハ元茅^{チニ又}野^ノ吉野^ノカ^ノ濟^ノ和
 刻^ノ奴^ノ野^ノト音響相似タリ^{ト見レ}
 ○内典ヲ以テ音ニヨミ外典ヲ漢音ニヨムハ桓武天皇、

御宇ニ行定アリシニ騷書ハ漢吳トモニ用ルルト云ヘリ
 ○象戲馬ノ銘ノ文字ハ筆法ニ堪ル人ヲ撰テ馬ノ銘ヲ記
 サシム水々^々兼成御男子ト高倉永家御ノ子ノ
 親具ヲ養フシカニ兼成實子ヲ産ム氏成ト号スエニ
 於テ親具家督ヲ辞シ剃髮シ一高ト号ス能書ノ名
 アリ豊臣秀次一高ヲシテ将棊ノ馬ノ銘ヲカシム是水
 無瀬家馬ノ銘ヲ書スル始ナリ
 ○侍從大納言成通卿鞠ハ凡夫ノ仕業ニアラサレリ一日

鞠ヲ高ク揚ラシケルニ旋風ノ物ヲ吹マクルヤウニ爲サレ付
タリト旬ルホトニ雲ノ中一入リ見エヌニ止ニケリ此事偽ニ
アリ申誓言状ニカシテトソノナリ物

○後藤祐兼ハモト美濃國ノ武人ニシテ普光院義教公ニ
仕フ一旦義教公ノ忿怒ニテ獄舎ニ入ル時ニ季夏
ナレ暑氣膚ニセリテ堪カク守獄ノ者是ヲ憐ミテ
桃實ヲ與フ祐兼大ニ悦テ其肉ヲ食シ其核ノ面ニ
小ヲ以テ日吉ニ十一社ヲ彫刻シ并ニ猿六十六足ヲ刻シ

其細密ナルコト言語ノ及フトコニアラス道ニ義教公一キニ
一度是ヲ見テ大ニ奇ナリトシテ則チ其罪ヲ免ル獄
舎ヲ出サシム則チ祐兼ニ命シ金銀銅ヲ以テ刀劍ノ粧具ヲ
造ラシム目貫髪搔小柄等ヲ其彫刻ス所ノ花鳥人
形ニコトニ生ルカコトシ彼桃核ハ今常陸國ニアリテ土人
コレヲ日吉ノ神トス

○高陽院親王ハキメタル物ノ上手ニテ細工ニ巧ニ目ハシケル京
極寺ヲ建立ヘリシニ其寺ノ前ノ河原ニア田ハ此寺ノ領ナリ
而シテ天下旱敷ニシ年此親王長四尺アリタル童ノ左右ノ
并ニ器ヲサケ立ル形ヲ造リ此田ノ中ニ立テ置ヤ人來テ其
童ノ持名器モニ水ヲ入レ盛受テ則ケ人形ノ頭ヲ引ヤル
ヤウニ操リ造リタルハ此ヲ見ル人エテ水ヲ持來リ器ニ
盛リ興シタルニ京中ノ人群リ市ヲ演ズルニ其田燒ルニ
ナクシテ滿秩セリ 今昔物語

○本朝詩 始ノ事已法書ニ據ル但シ古友ノ今朝ハ五言ノ
祖ニテ大洋皇子ノ七言ノ祖ナリ

○橘廣相長ニテ持字凡書ヲヨムニ卷ヲ開キ横ニシテヨミ
アマラス七日ノ間大藏經ヲ電覽ス其敏速カクノ如シ

○傳為憲文曾アルコトニ一巻ヲ携テ以テ赴ク夕ニ喜
ヘキノ句アルトキハ則其頭ヲ囊中ニ入テ吟哦スルコト良久
他人ノ詩ニ於テモ亦然リ

○建仁寺ノ常菴十歳ノ時見人曰喝食人ノ夕ヲ請フラスヤ

常菴スナハ吟シテ曰

度堅生ハ歳

口始解言詩

今古同中異

何恨二年遲

林子曰多減編イメタ從終興イハシノ人タムコトヲシラス

先山その紀
あまのしるし

御堂潔白物ハラシク道ニ荷負セタル馬先ニ立先小

童手ニ書ヲサケテヨミテ行ケラ奇ト思召近ク召寄テ

御覧シテ眼ニ重瞳アリテイニシクサカニキ相ノ頃ヲ召シテ

匡衡ニツテ学問セサセラルルニテ大江持棟トテ廣才

多々執云長壽ノ人ナリト聞ヘシ

大外記清原頼業ハ記ノ中大學中庸ニ見テ是

聖人要トセル書ナリト礼記ノ中ヲ又キ出テ世ニ教ヘラレケリ

追々後ニ朱子ノ大學中庸ヲ又キ出テ四書注ヲ始テ

日本ニ傳ヘリ 文治年中事

本朝茶ヲ賞スル下ハ舊憲ハ我天皇ノ時ニ既ニ是ヲ

翫玉ヘリ中世建仁寺ノ開祖榮西入宋シ茶ヲ得テ

本朝ニカレリ源ノ実朝公ニ奉リ玉フ又明惠上人茶ノ
實ヲ柘尾ニ植初メ玉リ其所深滋等ノ園ノ名今ニ
存セリ公方美滿公クノ伏見ニ在レハ時大内氏ノ人
ヲシテ宇治ニ植サセレ

○百年餘リ狐ノ靈石ト化レ能ク土之然クニ能ク者
之所ニ齧ル故殺生石ト号ス焉以倡此之

○竹生鳥ノ神、主系イナ鳥命子ウツリミタノミコト宇賀御免命也

○古ハ耕作シテ取収ハ先是ヲ神ニ奉ル是ヲ初穂
ト云フ今金銀米錢等ニ至ルニテ神ニ奉ルハ皆初
穂ト云フ

一係譯言兼良

地
黃
之
照

本
河
臨
光
悅
善
云